

3 まちづくりに向けた課題整理

3-1 健康と文化の森地区の特性や優位性

(1) 地区にある資源、地区の優位性

豊かな自然環境・美しい田園風景

本地区やその周辺には、本市の三大谷戸のひとつである遠藤笹窪谷（谷戸）をはじめ、里山や田園の美しい風景、あじさいや彼岸花が咲く小出川など、水と緑があふれる豊かな自然を有しております。また、萩の寺と知られる宝泉寺など、樹林に囲まれた寺社があり、さらに高台からは富士山も眺望できるなど、守っていききたい資源、景観がひろがっております。



図 遠藤笹窪谷（谷戸）の様子



図 彼岸花が咲く小出川の様子

豊かな農業環境

本地区やその周辺は、市内でも農業が盛んな地域であり、豊かな農業環境が広がっております。



図 地区内の農地の様子



図 地区周辺の農地の様子

慶應義塾大学SFCの立地

本地区には慶應義塾大学SFCが立地しております。慶應義塾大学SFCでは、最先端のサイエンス、テクノロジー、デザインを活かしながら、環境、エネルギー、格差拡大、戦争、民族・宗教対立等、ひとつの学問領域だけでは解決不可能な問題に対して、総合的に問題解決に取り組み、対策立案からその実証実験、そして結果評価まで一連の過程を通じた研究を進めております。

開設時期	1990年4月
敷地面積	約10万坪
学生数	大学 4,851名(2014年5月現在) 大学院含む 中等部・高等部 1,223名(2014年5月現在)
教員数	192名(2014年5月現在) 客員教授、訪問教員、特別招聘教員、特別研究教員等は除く
学部、研究科	総合政策学部、環境情報学部、看護医療学部 政策・メディア研究科、健康マネジメント研究科
研究・プロジェクト例	<u>環境情報学部</u> <ul style="list-style-type: none"> ・量子コンピュータ・量子ネットワーク技術の研究 ・防災の実践研究(幼児向け防災教育、防災グッズの研究) ・唾液や血液から病気を判定する次世代の健康診断技術の開発 <u>総合政策学部</u> <ul style="list-style-type: none"> ・コーチング技術やライフスキルプログラムの作成と実践 ・ビッグデータを活用したマーケティング手法の開発 ・住民主導の課題解決が図れるようなプラットフォームの設計 慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス 総合政策学部・環境情報学部 パンフレット

慶應義塾大学未来創造塾の計画

慶應義塾大学SFCでは、隣接地の2haの敷地において、未来創造塾を建設予定です。未来創造塾は滞在型教育研究施設であり、塾生と教員が寝食をともにした学び場を提供すると同時に、慶應義塾大学SFCに所属しなくても地球視点での課題解決に取り組む国内外の若手研究者に解放され、真のグローバル人材の育成を行なう施設をめざしております。

2015年度中に、EAST街区で先行して未来創造塾の開設をめざすとしております。EAST街区においては、「SFC生によるキャンパス作り」を行うことで、未来創造塾の本来の理念でもある「学生が教職員と一緒に考え、自らが創造するキャンパス」に挑戦するとされています。



左から研究棟・宿泊棟

資料：慶應義塾大学未来創造塾ホームページ

特区の指定

本地区は「京浜臨海部ライフィノベーション国際戦略特区」と「さがみロボット産業特区」に指定されており、これらの特区に関連した医療・健康や介護の分野についての研究開発施設や企業の集積による地域の活性化、先端技術を活用した地域の健康・医療のまちづくりの展開などが期待されています。

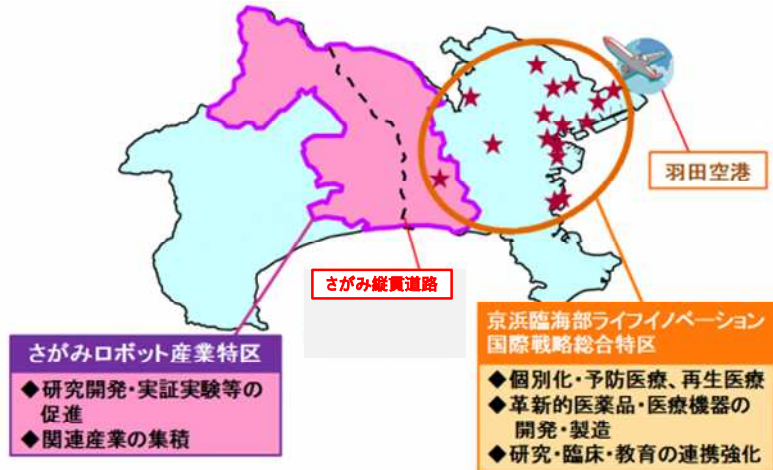


図 神奈川県内の特区の位置（ 国家戦略特区は神奈川県全域）

資料：神奈川県ホームページをもとに作成

東京圏国家戦略特別区（神奈川県全域が指定）

目標	産業の国際競争力の強化や国際的な経済活動の拠点形成を促進するために、規制改革やその他の施策を重点的に進める区域
認定	2014年12月19日
区域	神奈川県全域が指定（他にも東京都千代田区、中央区、港区、新宿区、文京区、江東区、品川区、大田区、渋谷区並びに千葉県成田市が指定）
神奈川県における活用	<ul style="list-style-type: none"> ・神奈川県では、健康寿命を延ばし誰もが健康で長生きできる社会をめざし、「未病を治す」と「最先端医療・最新技術の追求」という2つのアプローチで健康産業の推進をおこなっており、その一環として国家戦略特区を活用 ・神奈川県内では次の表の事業を特定事業として位置づけ

表 神奈川県内で位置づけられている特定事業

事業実施主体	事業の内容	規制の特例の名称
東京大学医学部附属病院	CYBERDYNE 株式会社と連携し、ロボット技術で、歩行困難となった患者の身体機能回復を行う。	保険外併用療養に関する特例
混志会 瀬田クリニックグループ	がんに対する次世代型の免疫細胞治療を中心とした診療、臨床研究開発等を推進するため、県内に新たな拠点（新規病床19床）を整備する。	病床規制に関する医療法の特例
葵会	循環器領域の再生医療等の最先端医療の提供を行うため、川崎南部病院にハイブリッドオペ室を整備する。	病床規制に関する医療法の特例
横浜市立大学	新薬等の開発による高度医療の提供のため、同大学附属病院に専用病床を整備する。	病床規制に関する医療法の特例

「保険外併用療養に関する特例」とは、公的医療保険と保険外の医療サービスを合わせて受ける場合、原則受診者の全額自己負担となる一般ルールに対して、例外的に保険外併用療養費として医療保険から給付が行われる制度である。

京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略特区

目標	個別化・予防医療時代に対応した、グローバル企業による革新的医薬品・医療機器の開発・製造と健康関連産業の創出を目標とする。
認定	2011年12月22日（2013年10月11日に本市の一部を含む区域等が追加）
政策課題	個別化・予防医療を実現するための健康情報等のデータベース構築 国際共同治験の推進によるドラッグラグ等の解消と国内製品のアジア市場への展開 大学等の優れた要素技術の産業化と既存産業の医療・健康分野への展開
解決策	健診データを活用した検体バンク・検体情報ネットワークの整備 革新的な医薬品・医療機器の新たな評価・解決手法の確立と国際共同治験の迅速化 ニーズ主導のマッチングによるベンチャー企業等の創出、産業化
慶應義塾 大学SFC での取組	・漢方、東洋医学に関するエビデンス解明のためのビッグデータ解析事業の実施 ・(仮称)東西医療センターを設置し、漢方、中医及び東西統合医療の教育、研究、臨床を実施

<京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略特区に企業が立地するメリット>

地域独自の規制の特例措置

- ・特区の目的に資する事業を進めるにあたり支障となる国の規制について緩和をめざす。
- 税制上、財政上、金融上の支援措置
- ・特区内での事業に対して、税の控除や融資の利子への補給金の交付等を行う。

さがみロボット産業特区

目標	生活支援ロボットの実用化や普及を促進していくことにより、少子高齢化社会における介護や災害時の捜索・救助など、県民が直面する身体的・精神的負担等を軽減するとともに、生活支援ロボットの実用化を担う企業の集積を進め、実証環境の充実を図ることにより、産業面から県民のいのちを守り、県民生活の安全・安心の確保及び地域社会の活性化を図り、県民満足度を高めていくことを目標とする。
認定	2013年2月25日
政策課題	少子高齢化の進行により増加するニーズ(介護・医療・高齢者にやさしいまち)への対応 切迫する自然災害への対応
解決策	研究開発・実証実験等の促進 実証実験の環境の充実に向けた関連産業の集積促進
区域	本市を含むさがみ縦貫道路を中心とする9市2町
2013年の 取組	(開発・実証、企業立地スキームの確立と実施) ・重点プロジェクト ・オープンイノベーション ・全国公募など新たな実証 ・大規模実証施設の確保 ・土地利用手法の確立 ・国の規制緩和、財政支援の獲得

<さがみロボット産業特区に企業が立地するメリット>

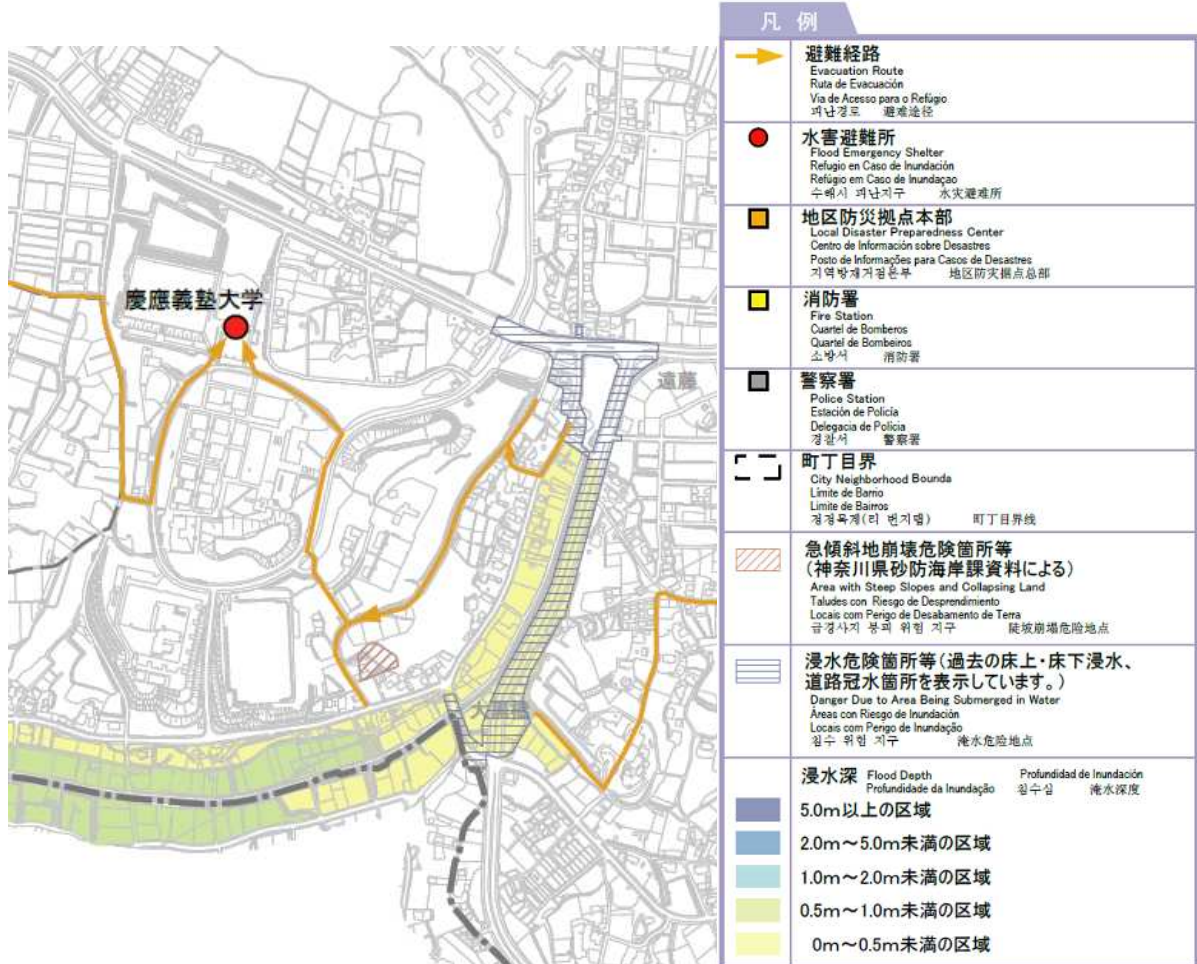
実証実験の場の確保

- ・ロボットに最適な実証実験が行えるよう実験場所やモニター等のコーディネートをおこなう。
- 規制緩和の推進
- ・ロボットの開発・実証の促進につながるよう、国に規制緩和を提案し協議を進めていく。
- ロボット開発支援・立地支援
- ・ロボット技術に関する共同研究開発を支援する。
- ・ロボット関連企業の立地を促進するため、最大1億円の奨励金を交付するほか、不動産取得税の軽減、低利融資などの優遇措置を講ずる。
- ・企業が立地しやすい環境にするため、土地利用等について県が権限を持つ各種規制を緩和する（県版特区の推進）

(2) まちづくりにあたり改善すべき点

浸水被害への対応

本地区における雨水は、小出川へ排水されておりますが、本市域内で計画されている河川改修が未着手なため、十分な流下能力が確保されておりません。そのため、大雨時などには慶應義塾大学 S F C のバスターミナル付近からその東側の郵便局周辺、さらに小出川沿いは浸水がたびたび発生しており、その対応が必要となっております。



資料：「藤沢市北部 洪水ハザードマップ」より抜粋



写真：慶應大学入口交差点付近



写真：慶應大学入口交差点南側

図 慶應義塾大学 S F C 周辺の洪水ハザードマップと浸水被害状況 (2013年9月15日)

管理が行き届いていない農地や樹林地

遠藤土地改良区域やその隣接地には耕作放棄地や不法投棄された農地、手入れの行き届いていない樹林地などが見られ、良好な営農環境や農村風景が損なわれております。



図 手入れの行き届いていない樹林地・農地の様子

身近な生活を支える機能の充実

慶應義塾大学SFC周辺に、食料や日用品を買うことのできる店舗、飲食店など身近な生活を支える機能が不足しております。このようなことからキャンパスの中は学生でにぎわっておりますが、キャンパスの周辺は、閑散とした状況となっております。

3-2 まちづくりに向けた課題

(1) 地区の位置づけからみた課題

広域・地域の交流や連携を促進する交通機能の確保

本地区は、藤沢市都市マスタープラン等において、周辺地域、本市内の他の都市拠点間を結び、さまざまな交流や連携を促進する機能・役割が期待されております。

こうした交流や連携の機能を支えるため、いずみ野線の湘南台駅からの延伸やバスの再編を行うことで、公共交通や幹線道路網の充実を図り、広域及び地域の交通ネットワークを確立することが課題となっております。

藤沢市西北部における新たな都市拠点の形成

藤沢市都市マスタープランにおいて、学術文化新産業拠点と位置づけられている本地区は、慶應義塾大学SFCの持つ情報・環境・医療分野等の技術集積や学術・研究機能を核として、産学公連携によるビジネス育成や国際交流の拠点が形成されるよう、広域にわたる新たな活力創造の場を創出することとしており、その実施が課題となっております。

また、新たに創出する都市拠点にふさわしく、周辺に残る田園空間や自然環境と調和した環境共生型の拠点空間を形成することも求められております。

(2) 地区の特性や優位性をふまえた課題

新たな産業創出や高度な教育・研究・開発が可能な地区特性の発揮

本地区には、環境や政策等の領域において最先端のサイエンスやテクノロジーを駆使して先進的な研究を進めている慶應義塾大学SFCが立地しております。今後、未来創造塾の開設など、よりオープンで充実した学術研究環境の強化が計画されております。

また、本地区や慶應義塾大学SFCは、京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略特区やさがみロボット産業特区にも指定されており、予防医療等のための薬品や医療機器、生活支援ロボット等の研究開発、実証実験、製造等、特区指定を活かした取組も可能となります。

このように、本地区は、他の地域にはない先進的・先端的な研究や開発、新産業の創出などに取組むための優位性があり、こうした強みを活かし、魅力ある環境整備を進めていくことが重要となります。

豊かな自然や農業環境と都市的土地利用との調和

本地区及びその周辺地域の魅力や特色の1つは、水と緑が豊かな自然や農業環境となっております。例えば、本市の三大谷戸のひとつである遠藤笹窪谷（谷戸）をはじめとして、あじさいや彼岸花が咲く小出川など、水と緑があふれる豊かな自然を有しております。

将来的にまちづくりを進めていくにあたっては、これまで守られてきた豊かな自然や農業環境と都市的土地利用との調和を図りながら、現在の地域が持つ魅力を保っていくことが課題となります。また、周辺の農業振興に寄与するまちづくりも求められます。

雨水対策をはじめとする災害への備え

本地区は、大雨の際に小出川沿いなどの地域でたびたび道路の冠水等の水害が発生しております。

将来的にまちづくりが進み、保水力の低い都市的土地利用の割合が増えれば、冠水や浸水による被害が深刻化することが想定されるため、浸透性に優れた舗装や雨水の調整池などを整備して、水害が起きにくいまちづくりを進めることが求められます。

また近年は、記録的な豪雨や降雪の発生や、首都圏において近い将来、大地震の発生が想定されていることから、このような災害を低減させる取組みが求められており、また災害時の行動計画や対処方法を確立することも課題となっております。

(3) 将来を見据えたまちづくりの課題

B 駅を中心とした集約型市街地の形成

本地区のまちづくりにあたっては、将来の人口減少社会への移行や超高齢社会の進展も見据えるとともに、周辺の良好な田園空間や自然環境と調和を図るため、都市の諸機能を駅周辺に集約して拠点性を高め、誰もが自家用車に頼ることなく生活できる環境を創出することが必要となります。

また、集約型の拠点を形成することによって、徒歩、自転車、公共交通を中心とした生活が可能となり、環境負荷が低減されるとともに、日常の身体活動量が増加することで健康の増進にも寄与し、また医療費の抑制にもつながります。

地域活力を持続させるための多世代の定住や来訪

本地区のまちづくりによって創出されるまちのにぎわいや活力を将来にわたって持続するためには、多様な世代の人々が地区内に住み、働き、学び、余暇を過ごし、日々新たな活動や取組が生まれ、連鎖していくことが必要です。そのために、暮らしやすい環境整備や、だれもが足を運びたいような魅力的な場や機会等を創出し、人々の社会的なつながりを強化することが重要となっております。

新たなライフスタイルの提案

今後、人口減少をむかえる局面において、単にインフラ等の整備を行うだけの従来型のまちづくりでは、地区の魅力を活かすことができず、新しく住む人が集まらない活力のないまちとなってしまう可能性があります。そこで、生活する人の視点に立って、住むことでのメリットが感じられるような新たなライフスタイルを提案し、その実現に向けてまちづくりを進めることが必要となります。

例えば、本市南部では相模湾を資源とする海のある生活を送るライフスタイルが確立し、湘南地域のブランド価値を高めております。本地区周辺においては、森林や農地をはじめとする貴重で豊かな自然があり、また慶應義塾大学 SFC を核とする先進的・先端的な研究・教育の場があることから、これらの強みをより活用し、この地域での生活に積極的に取り込んだ新しいライフスタイルを提案し、発信していくことが求められております。